

事務事業名		アーカイブズ保存活用事業		会計	一般会計	実施区分			
H28担当課等名		歴史研究所		事業種別	政策	開始	16	終了	
H28担当課等名		歴史研究所		H28係等名	総務係		H27係等名 総務係		
基本計画上の位置づけ		政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり					
		施策	63	地域資産の保存・継承					
目的	対象(誰・何を)	資料(飯田・下伊那地域の歴史資料)			対象指標	指標名及び単位		27年度数値	
	意図(どうい状態にするか)	失われる資料を収集し、保存・公開できる体制を整え、時代を受け継いでいく市民共有の歴史的財産を構築				保存した旧役場文書や学校などの公的機関の資料数	500		
	向上させたい上位施策の成果指標	保存・継承されている地域資産の数(累計)				毎年度発生する非現用文書件数(単年度)	410		
目標	種別	指標名及び単位			27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)
	成果指標	旧役場文書や学校などの公的機関の歴史資料の保存(旧上村・南信濃村等非現用文書を含む)			500	9142	500	-	指標変更
	成果指標	保存した非現用文書件数(フォルダー数)(単年度)			500	410	500	-	
定性目標									
事業概要	<p>1 地域に残る歴史資料は、地域に生きる市民にとってかけがえのない文化財産である。歴史資料(アーカイブズ)の多くは、現在滅失の危機にあり、これらの地域遺産を調査・収集・整理・保存・公開し、市民や研究者が資料を積極的に活用できる環境を整え、飯田の魅力のひとつとして、貴重な財産を未来に継承</p> <p>2 当面はこれまで実施してきた概要調査、現状記録調査、採集調査、聞き取り調査等の他、市役所非現用文書・旧役場文書の保存などに継続的に取り組み、得られた史料や情報の保存・公開・活用に向けて、体系的なシステムの構築と文書保存や閲覧利用の充実を図り、「地域アーカイブズの拠点」としての役割を果たせるような取り組みを展開</p>								
	事業内容								
27年度事業内容	事業内容			名称			活動指標		
	1 旧役場文書や学校などの公的機関の歴史資料の保存・活用 (1)旧鼎村・下久堅村等役場文書の整理			1(1)整理・保存件数			1(1) 9,142件		
	2 市役所の非現用文書の移管・整理・保存 (1)市役所の非現用文書の整理・保存(現在保管をしている文書) (2)市役所の非現用文書の整理・保存(27年度移管分)			2(1)整理・保存件数 (2)整理・保存件数			2(1) 10,149件 (2) 410件		
	3 私文書の保存・継承の支援			3 保存・継承支援数			3 49回		
	4 調査・整理後、公開された史料			4 公開件数			4 14件		
	5 他団体などの事例の情報収集			5 情報収集回数			5 10回		
	6 史料公開のガイドライン検討(行政文書、学校史料など)			6 ガイドライン検討数			6 2件		
事業コスト		26年度決算額	27年度予算額	27年度決算額	28年度予算額	特定財源内訳、補足			
事業費計(千円)①		0	0	0	0				
国庫支出金									
県支出金									
起債									
その他									
一般財源									
人件費計(千円)②		3,576		3,576					
正規職員所要時間		1,000		1,000					
臨時職員所要時間									
総事業費①+②		3,576	0	3,576	0				
事業内容・目標達成状況の振り返り		<p>・座光寺地区の団体と協働で、月2回の史料調査・整理を行い、私文書の保存・継承を実施している。(平成24年度から実施)</p> <p>・保存継承困難な私文書や非現用公文書などの保管場所と保存処理経費の確保が困難な状況で課題である。</p>							
改革改善の考え方	①問題点	地域アーカイブズ事業の拠点としての役割を果たす取り組みが必要であるが、スタッフや予算等の問題から持ち込まれる資料は、最低限の作業に留まり調査研究の段階までに至らないケースが多い。							
	②改革提案	<p>・公文書館法等の機能に基づいた事業体制の確立を目指す。</p> <p>・私文書、公的機関の歴史文書、行政非現用文書等に関する史料公開のガイドライン策定とアーキビストの育成</p>							